平成28年2月12日

大宮中央校第１０期 校友会会員各位

大宮中央校第１０期校友会

桜ウオーキングのご案内

桜で有名な幸手の町並と権現堂堤を歩きます。

権現堂桜堤には、美しい水辺と緑豊かな自然があります。

桜のトンネルの淡いピンクと、菜の花の黄色のコントラストが見事です。

春の一日を１０期の仲間と一緒に歩きましょう。

記

１．開 催 日　　平成２８年４月７日（木）

２．集合場所　　大宮駅東武線ホーム

３．集合時間　　午前９時００分　　大宮発９時１３分～春日部着３４分

　　春日部発９時４６分～幸手着９時５８分

４．持 ち 物　　お弁当、おやつ、飲み物、雨具(折り畳み傘)、タオル、敷物

　　健康保険証など

５．参 加 費　　無料。（但し傷害保険は付保されておりません）

６．お 天 気　　天気予報で降水確率４０％以上の場合は中止いたします。

　　尚中止の場合は班長さんなどから連絡いたします。

７．参加申込　　３月１０(木)までに各班長宛お申込下さい。

８．そ の 他　　・

　　・コースの途中一般道路を歩行いたしますのでご注意願います。

９．コース等　　時間は歩行時間です。見学時間は別途

　　歩行時間　　１時間

　　歩行距離　　約４㎞

　　参加者にはコースのマップを用意したします。

「幸手の歴史に触れて、桜を愛でながら、ゆっくり歩きましょう」

コース

一色稲荷社(別称陣屋稲荷)～天神神社～満福寺～幸宮神社(幸手総鎮守)～雷電神社～

一里塚～聖福寺～正福寺～権現堂桜堤～昼食と桜見物（行幸湖の大噴水など）

帰りは

幸手駅まで臨時バス運行を利用

案内人　伊藤　徳雄

幸手の地名由来

日本武尊が東征に際して、「薩手が島」に上陸、田宮の雷電神社に農神を祭った、
という言い伝えあり、「薩手が島」の薩手に由来する。
原始、幸手は海だった。奥東京湾が古河まで入り込む
下河辺荘は利根川水系と常陸川水系(江戸川)に挟まれた低地で、ここを開発したのは平将門を倒した藤原秀郷の子孫「下河辺行義」である
下河辺荘(古河、栗橋、五霞、総和町、幸手、春日部、庄和町、松伏、三郷)

幸手市は、「桜のまち」と呼ばれるほど関東有数の桜の名所として知られています。春になると中川の権現堂堤では、約1,000本の桜が開花し、１㎞におよぶ桜並木と周辺に広がる菜の花畑が70万人を超える観光客の目を楽しませています。

幸手駅　１０時スタート

一色稲荷社(別称陣屋稲荷)　駅から２分

幸手駅附近一帯に、城山又は陣屋と云う地名が残っている。
館跡と思われる位置から巽(南東)の方向に祀られている陣屋稲荷は、別名一色稲荷とも呼ばれ、一色氏の守り神として祀られた氏神であると伝えられている。
今でも地元の人々の信仰を集めており、毎月22日の縁日と、初午祭などの祭りが行われている。

幸手城(陣屋)

現在は一色稲荷以外、何もその面影は見られない。
幸手駅とその周辺はかつて城山と呼ばれ南北朝期頃に一色氏によって築かれた城がありました。「日光道中分間延絵図」などから推定すると幸手駅を城の中心として西側の馬場と伝わる祥安寺辺りまでが城域と考えられている。当時は旧・利根川とその支流と低湿地に囲まれる自然堤防上に城は築かれていたと考えられます。
幸手一色氏は足利尊氏の命により九州探題として九州経営を任せられる一色範氏の子孫であり鎌倉公方に仕えました。公方が古河に拠点を移した後も重臣として歴代公方を支えますこの頃に上杉氏に対して城は、関宿城(梁田氏)、菖蒲城・騎西城(佐々木氏)と並ぶ防衛拠点として整備拡張されたものと思われる。
その後、後北条氏配下に組み込まれた後、江戸幕府にも仕え改めて幸手に所領を与えられ城山の一角に館を構えたのでしょう

日光街道分間延絵図　幸手宿

絵図右下のこんもり山が一色氏の幸手城

幸手宿は鎌倉時代には鎌倉街道が通じ、軍事・交易の要衝として栄え、室町時代以降は一色氏の領地となった。 江戸時代以降には幕府直轄の天領となった。日光街道 6 番目の宿で、又日光御成道の合流点として、更に筑波道分岐する宿場町として栄えた。
そして利根川の付け替え工事、江戸川の整備により舟運が発展し権現堂河岸に廻船問屋が軒を連ねていた。

天神神社

元は裏町天神と云われ、祭神は菅原道真である。
満福寺の別当寺であった。本社は鎌倉の荏柄天神社(鎌倉幕府の鬼門鎮守)
この神社の創建については明らかではないが、戦国時代の幸手庄の領主一色氏に依って創建されたものと伝えられる。一色氏は学問の神様である天神信仰に帰依されて、幸手地方に多くの天神社を造営した。特に裏町・天神島・平須賀・神扇・上高野の五社は一色五天神と称されている。この裏町天神は一色氏館の鬼門に位置していたとも云われ、館の守護神として祀られたと伝えられている。以前は、裏町も天神社にあやかって天神町（現在は住民表示に依り中一丁目）と呼んでいたことがある。

満福寺　山号 荏柄山

真言宗智山派　本尊 如意輪観音
一色氏発願寺の祈願として戦国期に建立されたと云われ、その後、裏町天神や八幡香取社の別当を務めた時もあった。本尊の観世音菩薩は、安産子育てに御利益があると云われている。
当満福寺の梵鐘は「そだての鐘」と言う。

幸宮神社(幸手総鎮守)、

幸宮神社は、昔、八幡香取社と云っていたが、明治 42 年(1909)に神社の合祀が行われたのを機に、幸手の総鎮守となり、幸宮神社と改めたと云う。

幸宮神社は、創建から 400 年以上の歴史を持つ古社で、幸手宿の総鎮守として信仰されてきました。現在の本殿は、棟札によると文久 3 年(1863)に再建されたもので、総欅の流造りです。正面扉の両側に昇り龍・下り龍が刻まれ、本殿の周りには獅子・鳳凰・天邪鬼・鷹・松などが彫刻されています。獅子は左右一対になっており、阿吽の形をとります。また、田起こしから収穫まで、稲作の様子を、順を追って描いた四季農耕の彫刻も見事です。

その本殿の彫刻ですが、

平成 3 年(1991)に幸手市の有形文化財に指定されているの。

雷電神社

中世の幸手は田宮庄または田宮町といい、その中心がこの神社で、日本武尊の伝説も残されている、幸手で最も古い神社の一つです。田の中に金色の雷神が落ち、これを祠り田の中の宮、田宮としました。

雷神は、水との関係が深く、特に農家の人々の信仰を集めました。また、社の裏には瘤神社・疣権現・疱瘡宮と書かれた石が建てられていて、皮膚病に悩んだ人々の、素朴な信仰の姿も見ることができます。この神社は、明治以前は幸手宿の総鎮守でした。

雷電神社の御神体は金銅製の雷神像で、雷除け・雹除けに霊験灼かとされ、その一方で、雷神は恵みの雨をもたらしてくれる神さまでもあり、この雷電神社でも昭和 30 年代頃までは降雨祈願の雨乞い神事が行われていたようよ。社殿裏手には瘤神社と疣大権現の石祠などもあり、疱瘡などの皮膚病に悩んだ当時の人々の信仰の姿も見えてくるの。

聖福寺　山号 菩提山　院号 東皐院

浄土宗　本尊 阿弥陀如来(他に運慶の作と伝えられる観音菩薩像が祀られている)

知恩院の末寺

江戸時代には将軍の日光社参の折りと、東照宮例大祭に天皇の代理で参拝した例幣使（れいへいし）の帰路の休憩所に用いられ、山門は〔聖福寺勅使門〕幸手市指定有形文化財建造物 この唐破風の四脚門は建造後、約 350 年の歴史を有します。扉には菊の紋様が刻まれており、勅使門と呼ばれています。嘗ては将軍一行や例幣使（天皇が祭礼に送る使者）が来た時しか、開くことはありませんでした。

徳川三代将軍家光が日光社参の時、御殿所（将軍の休憩所）として使用したのを始めとし、天皇の例幣使や歴代将軍が 18 回にわたり休憩した。将軍の間、例幣使の間、菊の紋章の入った勅使門（唐門）があり、左甚五郎作といわれる彫刻等も保存されている。

また、御朱印状により 10 石を賜ったことがわかる。

ここ聖福寺は、日光東照宮に参詣した歴代将軍の休憩所であり、また、東照宮例祭に臨席した例幣使も休憩をとりました。この勅使門は修理の手も加えられていますが、日光道中の宿場として栄えた幸手の隆盛を偲ばせるものです。

正福寺　山号 香水山　院号 楊池院

真言宗智山派　本尊　不動明王

当山は、江戸時代学問の研究や子弟を養成する常法談林であり、当時この寺は、49 ヶ寺の末寺

を持っていた。また、将軍徳川家光の代、御朱印 13 石を賜っている。
境内には、県指定史跡の**義賑窮餓之碑**がある。天明３年(1783)に浅間山が大噴火したため関東一円に灰が降り、冷害も重なって大飢饉となった。この時、幸手町の有志 21 名が金品を出しあって、難民の救済にあたった。この善行が時の関東郡代伊奈忠尊の知るところとなり、顕彰碑を建てさせたと云う。
また、樹齢 450 年、根周り 5m もある榎の大木があり、県の天然記念物に指定されていたが、惜しくも枯れてしまった。寺には、多くの古文書や仏像・書画が保存されており、境内には日光道中の道標もあり有名である。

「権現堂」という地名の由来

地名の由来は、江戸時代後期に幕府が編さんした地誌「新編武蔵風土記稿」に
権現堂村の項にとあり
（訳）
村の中に、「熊野権現社」、「若宮権現社」、「白山権現社」という三つの神社を一緒にまつった旧い神社があったので、「権現堂村」という名になった。

江戸時代にはこの堤が切れると江戸城下までも水害が及ぶことから御府内御囲堤（ごふないおかこみつつみ）とも呼ばれ、重要視されていた。その権現堂堤も大正末からの河川改修で権現堂川も締め切られると堤としての役割を終えた。その権現堂堤を保存するために大正９年(1920)から桜が植樹され、桜の名所として知られるようになったの。折角の桜並木も戦時中には伐採されて薪にされてしまい、戦後の昭和 24 年(1949)に再び植樹されたもので、桜堤は昭和 58 年(1983)に市の文化財（名勝）に指定されたの。
権現堂堤の上には、順礼供養塔と順礼供養之碑が建てられている。亨和２年(1802)６月、長雨のために水位が高まった利根川は遂に決壊し、人々は土手の修復にあたったが、激しい濁流に工事を進めることが出きず手を拱いていた。その時そこを通りかかった順礼親子がこれを見かねて、自ら人柱を申し出、逆巻く流れに身を投じたと云う。すると忽ち洪水は治まり、修復の工事が完成したと云う。これに対し、順礼親子が工事は無駄だと云ったのに怒った人夫たちが親子を川に投げ込んでしまったと云う説もある。どちらが本当か分からないが、順礼供養塔は、人身御供になった順礼親子を供養するため、昭和８年(1933)に建立されたものである。また、順礼供養之碑には明治・大正の有名な日本画家・結城素明の筆による母子順礼の姿が刻まれている。昭和 63 年(1988)３月 埼玉県・幸手市

権現堂を見守る順礼母娘
権現堂堤の中央には、「順礼の碑」や「供養塔」が建っています。
享和２年（1802 年）、長雨が続き、堤が切れ、幾度修理しても大雨が降りだすと一夜のうちに切れてしまうというありさまでした。

ある時、堤奉行の指図で村人達は必死の改修工事をしていましたが、大被害と続く工事の疲れに、口をきく元気さえも失っていました。その時、夕霞のかかってきた堤の上に母娘の順礼が通りかかったのです。母順礼が堤の切れ口をのぞきこんで、「こうたびたび切れるのは、竜神のたたりかもしれない。人身御供（ひとみごくう）を立てなければなるまい。」と言いました。そこで、堤奉行は「誰が人身御供に立つものはいないか。」と人々を見渡しましたが、誰も顔を見合わせるだけで、進んで私がなるとういう者はありません。すると重苦しい空気を破り誰ともなく「教えたやつを立てろ。」という声があがりました。母順礼はこの声を聞くと、「私が人柱になろう。」と念仏を唱えて渦巻く泥水の中に身をおどらせたのです。これを見た娘順礼もあっというまにその後を追いました。すると不思議にもそこから水がひいて、難工事もみごとに完成することが出来たといいます。

この順礼母娘を供養するため昭和 11 年に石碑が建てられ、この碑には明治時代の日本画家結城素明（ゆうきそめい）による母娘順礼像が刻まれています。

行幸湖

権現堂大噴水（スカイウォーター120）は、120 年を迎えた埼玉県を象徴するために、噴水噴き上げ高も 120 フィート（36.6 メートル）。迫力満点です。

また、水辺の遊歩道など、うるおいとやすらぎにあふれた空間

ログイン
国道4号線
東武日光線
152
371
(株)東洋工芸
千塚
権現堂堤
幸手権現堂桜堤
松石
内国府間
さって福祉病院
幸手市役所 第三保育所
県道267
円藤内
(株)日新工業 埼玉工場
65
埼玉県立幸手桜高
47 分
3.8 km
北
267
西
第二幸手幼稚園
幸手市立幸手中
ファニチャーオグリ
立西中
正福寺
聖福寺
県道65号線
幸宮神社
(株)中山家具
牛村病院
幸手市役所
満福寺・真言宗
4
153
東
クリエイトS・D幸手中店
幸手市立幸手小
414
幸手駅
中
正一位一色稲荷神社
Earth
Google
地図データ ©2016 Google、ZENRIN
利用規約
プライバシー
200 m